

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 質の高い医療の提供

(1) 医療機能の充実

ア 神奈川県立足柄上病院（以下「足柄上病院」という。）

- ・ 地域の中核的医療機関として期待される、内科、小児科、外科、産婦人科等の診療科における医療を提供する。
- ・ 地域に潜在しているがん患者を早期に発見して治療できるよう、内視鏡による検査体制を強化し、内視鏡的治療件数の増加を図る。
- ・ 高齢化の進んでいる地域のニーズに応えるため、週1日の診療日を2日に増やすなどリハビリテーション科の充実を目指す。
- ・ 高齢者病棟（スマイル）を活用した高齢者への専門的・個別的医療や看護の提供等により「高齢者総合医療」を推進する。
- ・ スマイル病棟の入院患者に対しては、入院時及び退院時に実施するバーセルインデックス<sup>\*1</sup>による生活機能評価を活用し、より良い在宅生活を送れるよう生活機能の向上を目指す。

[スマイル患者数の実績と目標値]

区分	平成22年度実績	平成24年度目標値
実患者数	117人	120人
平均在院日数	21.6日	20.0日

- ・ 消防本部との連携を強化するなど救急体制を充実し、救急患者の受入れを拡大する。
- ・ ICU<sup>\*2</sup>設置に向けた第1段階としてHCU<sup>\*3</sup>の運用を開始するとともに、ICU施設基準取得に必要な医師及び看護師の確保に努める。

[年間救急受入の実績と目標値]

平成22年度実績	平成24年度目標値
11,872件	12,000件

- ・ 産婦人科医師の確保を図る一方、院内助産の体制を強化し、助産師外来、母親教室、母乳育児支援等、助産師を活用した取組により、地域で安心して出産ができるための産科医療体制を充実する。

[分べん件数（助産師分べん件数）の実績と目標値]

区分	平成22年度実績	平成24年度目標値
分べん件数	253件	180件
うち助産師分べん件数	73件	180件

## イ 神奈川県立こども医療センター（以下「こども医療センター」という。）

- ・ 小児の高度・専門医療を提供する三次医療施設として、心臓血管外科手術等の実施件数の増加に対応する。

[手術件数の実績と目標値]

区分	平成22年度実績	平成24年度目標値
手術件数	3,684件	3,800件
うち心臓血管外科手術	376件	400件
うち新生児手術件数	229件	160件
うち乳児外科施設基準対象手術件数	86件	105件

- ・ 心理的要因も含めた緩和ケアの体制を強化するため、スタッフの専従化を図り、緩和ケアチームの体制を強化する。また、小児緩和医療の普及啓発を図るため、地域の医療機関を対象にセミナーを開催する。
- ・ 疼痛を伴う処置及び検査に対する不安並びに手術後も含めた疼痛の緩和を行うアキュートペインサービス<sup>※4</sup>を推進する。また、アキュートペインサービスの普及・啓発を図るため、主に院内職員を対象にセミナーを開催する。
- ・ 本県の周産期救急医療<sup>※5</sup>システムを効果的に運用するために、周産期救急の基幹病院として、他の医療機関では治療が困難な患者を中心に受入れを行うとともに、小児三次救急とあわせ、地域医療機関との連携・調整の役割を引き続き担う。

[周産期救急の実績と目標値]

区分	平成22年度実績	平成24年度目標値
N I C U <sup>※6</sup> 受入実患者数	543人	600人
超低出生体重児 <sup>※7</sup> 入院件数	56件	55件
依頼医療機関から幹旋医療機関への新生児搬送件数	23件	25件
N I C Uから他医療機関への転院（戻り搬送 <sup>※8</sup> ）患者数	88人	100人

## ウ 神奈川県立精神医療センター芹香病院（以下「芹香病院」という。）・神奈川県立精神医療センターせりがや病院（以下「せりがや病院」という。）

### （芹香病院）

- ・ 精神科救急システムの実施主体である4 県市主管課や精神科救急医療情報窓口である神奈川県精神保健福祉センターとの密接な連携の下、措置入院患者のみでなく、急激な精神症状の悪化が見られ入院が必要な患者についても県の精神科の基幹病院として積極的な受入れを行う。

[精神科救急件数の実績と目標値]

区分	平成22年度実績	平成24年度目標値
措置入院患者	109件	100件
急激な精神症状の悪化が見られ入院が必要な患者	43件	50件

- ・ 難治性うつ病等に対する治療法（反復性経頭蓋磁気刺激法）の開発、復職支援等のリハビリテーションの推進等、うつ病等の精神疾患患者を対象としたストレスケア医療に取り組むとともに、県民に対してうつ病の予防に関する普及啓発に取り組む。
- ・ 新棟整備にあわせ、思春期を対象とした精神科医療の実施に向け、研修や資格取得の支援を行い、看護人材を養成する。
- ・ 心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律（医療観察法）に基づく指定通院医療機関として、通院対象者を個別診療計画に沿って多職種チームが積極的に医療を実施する。

[指定通院医療機関の実績と目標値]

平成22年度実績	平成24年度目標値
延1,126人	延1,056人

- ・ 医療観察法に基づく指定入院医療機関として、平成24年11月に専門病棟（33床）を開棟し、複雑な背景を持った患者に対し、専門治療プログラムに沿った手厚い医療を多職種チームにより実施する。

**(せりがや病院)**

- ・ アルコールや覚醒剤等の薬物による依存症の者と中毒性精神障害の者を対象とした外来診療のほか、集団精神療法や作業療法、家族教室などの実施により、新たな外来患者の受入れに努める。また、依存症医療の専門病院として地域の医療機関では治療が困難な患者の受入れや県市の保健所等の行政機関との連携に積極的に取り組む。

[外来初診患者数の実績と目標値]

平成22年度実績	平成24年度目標値
延734人	延750人

[初診患者の紹介率の実績と目標値]

平成22年度実績	平成24年度目標値
35.4%	40.0%

- ・ せりがや病院が薬物依存の患者に対して開発した再乱用防止認知行動療法（SMARPP：Serigaya Methamphetamine Relapse Prevention Program）のプログラムを活用して、通院の継続を図る。また、入院の繰り返しを防止するために高齢者用に開発した治療プログラムを、知的障害や発達障害等の言語的理解の困難な患者へ適用を拡大する。
- ・ 深刻化する青少年の薬物乱用を防止するため、学校の「薬物乱用防止教室」に職員を派遣し、専門病院としての臨床経験を踏まえたロールプレイなどを活用して啓発活動を行う。

## エ 神奈川県立がんセンター（以下「がんセンター」という。）

- 手術実施体制の充実を図り、手術待ちの患者が多数いる状況を改善する。

[手術件数の実績と目標値]

平成22年度実績	平成24年度目標値
2,565件	2,700件

- 外来化学療法の質を向上し、がん対策を総合的に推進する。

[外来化学療法件数の実績と目標値]

平成22年度実績	平成24年度目標値
11,746件	11,700件

- 外来化学療法については、患者が十分に理解し、安心して治療が受けられるよう外来治療室において、薬剤師による指導の充実を図る。

[外来薬剤指導件数の目標値]

平成24年度目標値
1,500件

- 高精度リニアックの導入により、より精度の高い放射線治療の実施及び拡充を図る。

[放射線治療件数の実績と目標値]

平成22年度実績	平成24年度目標値
19,109件	19,000件

[照射方法別治療実患者数の目標値]

照射方法	平成24年度目標値	
通常照射	600人	30回
I M R T (強度変調)	25人	37回
定位照射	24人	4回
全身照射	20人	1回

- 平成27年中からの重粒子線治療の開始に向け、平成23年度から行っている施設の実施設計を年度内に完了し、建築工事に着手する。また、装置製造を引き続き行う。
- 円滑な重粒子線治療施設運営を行うため、放射線治療医、医学物理士、診療放射線技師を、先行して重粒子線治療を行っている施設へ研修のため派遣するなどにより人材育成を図る。

- ・ がん専門医を育成するため、がん専門医臨床研修（後期臨床研修）を充実する。
- ・ 都道府県がん診療連携拠点病院<sup>※9</sup>としてがん治療の均てん化を進めるため、県内の医療従事者を対象に研修等を行うとともに、地域がん診療連携拠点病院が行う研修等への支援や地域の医療機関も参加できる合同カンファレンスを実施する。

[がん専門研修の実績と目標値]

区分	平成22年度実績		平成24年度目標値	
	回数	参加人数	回数	参加人数
がん臨床講座	33回	648人	30回	600人
緩和ケア研修	2回	55人	2回	50人

(注) 緩和ケア研修は、2回で1コース

## オ 神奈川県立循環器呼吸器病センター（以下「循環器呼吸器病センター」という。）

- ・ 狭心症などの虚血性心疾患や急性心筋梗塞の治療は、従来からP C I<sup>※10</sup>を中心に行ってきたが、近年、新たな研究発表などにより、冠動脈バイパス手術の適応が広がっていることから、P C Iの適応を見直しながら心臓手術を充実する。

[P C I症例数の実績と目標値]

平成22年度実績	平成24年度目標値
279件	260件

[心臓手術の実績と目標値]

平成22年度実績	平成24年度目標値
78件	84件

- ・ 高齢化に伴い、不整脈の患者が年々増加傾向にある中、内服治療に加え、カテーテルアブレーション<sup>※11</sup>にも拡大を図る。

[カテーテルアブレーション症例数の実績と目標値]

平成22年度実績	平成24年度目標値
65件	100件

- ・ 開胸手術に比べ、低侵襲である胸腔鏡下手術に積極的に取り組む。

[胸腔鏡下手術件数の実績と目標値]

平成22年度実績	平成24年度目標値
326件	300件

- ・ 化学療法については、入院治療とあわせ、外来での通院治療を積極的に推進する。

[化学療法件数の実績と目標値]

平成22年度実績	平成24年度目標値
1,194件	1,200件

- ・平成24年8月から本格稼動する高精度リニアックを活用し、強度変調放射線治療、定位放射線治療等より精度の高い治療を行う。

[放射線治療件数実績と目標値]

平成22年度実績	平成24年度目標値
138件	80件

- ・間質性肺炎については、呼吸器専門病院としての特性を生かして、従来のステロイド、免疫療法に加え、近年、承認された抗線維化薬を積極的に導入する。

[間質性肺炎の新規の外来患者数の実績と目標値]

平成22年度実績	平成24年度目標値
192件	180件

- ・多剤耐性結核<sup>※12</sup>対策として、入院患者全員に対し実施しているDOTS<sup>※13</sup>（直接監視下短期化学療法）を退院後も継続して確実にけるよう、地域の保健所などと定期的にカンファレンスを開催する。
- ・退院後の生活支援に当たっては、保健所や老人保健施設等との連携も進めていく。

## カ 医療機能を評価する指標の設定

平成23年度から全病院が取り組む「病院機構の共通指標（別表第1）」及び各病院の持つ専門性、地域的な特徴などを考慮して取り組む「各病院の専門性・特性に応じた指標（別表第2）」を設定し、その実績の測定を行うことにより、医療の質の向上を目指す取組を明確化する。

また、平成25年度に向けて指標の追加・修正の必要性、実績の公表方法等の検討を行う。

### (7) 病院機構の共通指標 8指標

【患者サービス（患者の視点に立った病院経営）】

- ・患者満足度の把握（患者満足度調査）
- ・地域医療連携室等の相談件数

【標準的医療の推進】

- ・クリティカルパス<sup>※14</sup>の設定数
- ・退院サマリー<sup>※15</sup>の2週間以内完成率

【医療安全・予防医療の取組】

- ・ヒヤリ・ハット事例<sup>※16</sup>及び医療事故<sup>※17</sup>の発生・報告状況
- ・褥瘡患者発生率

【人材育成と教育】

- ・新卒看護師<sup>※18</sup>離職率
- ・専門・認定看護師数

## (イ) 各病院の専門性・特性に応じた指標 18指標

### 【足柄上病院】

- ・糖尿病患者の血糖コントロールHbA1c<sup>※19</sup><6.9
- ・心筋梗塞の治療開始時間
- ・地域がん登録の登録率

### 【こども医療センター】

- ・1歳未満乳児外科施設基準対象手術件数
- ・ハイリスク妊娠<sup>※20</sup>取扱率
- ・患者・家族の意見を反映させた看護計画実施率
- ・在宅療養指導実施件数

### 【芹香病院】

- ・医療観察法の通院医療延患者数
- ・全県における救急病棟の措置入院の受入率
- ・外来患者への訪問看護延件数

### 【せりがや病院】

- ・初診患者の紹介率

### 【がんセンター】

- ・主たる手術の包括算定の対象入院期間 $\Pi$ <sup>※21</sup>以内の割合
- ・歯科口腔ケアの取組件数
- ・英文原著論文数及びそのインパクトファクター<sup>※22</sup>
- ・専門看護外来患者数

### 【循環器呼吸器病センター】

- ・急性心筋梗塞患者における病院到着からPCI<sup>※10</sup>による再開通までの時間
- ・心臓MRI検査件数
- ・リハビリテーション実施件数

## (2) 医療機器・施設整備の推進

### ア 医療機器整備の推進

- ・高額医療機器について、こども医療センターにおいて人工心肺装置の増設並びにがんセンター及び循環器呼吸器病センターにおいて生体情報管理システムの更新をはじめとした計画的な整備、更新を行う。
- ・通常の医療機器について、計画的な整備により老朽化した機器を更新する。

## イ 施設整備の推進

### (ア) がんセンター総合整備の推進

- ・ 平成25年度中の新病院開業・診療開始に向けて、建築工事に着手し、SPC<sup>※23</sup>との運営協議や医療機器・備品の調達準備等を進める。
- ・ 平成27年中からの重粒子線治療の開始に向け、平成23年度から行っている施設の実施設計を年度内に完了し、建築工事に着手する。また、装置製造を引き続き行う。
- ・ 円滑な重粒子線治療施設運営を行うため、放射線治療医、医学物理士、診療放射線技師を、先行して重粒子線治療を行っている施設へ研修のため派遣するなどにより人材育成を図る。

### (イ) 精神医療センター総合整備の推進

- ・ 医療観察法に基づく指定入院医療機関としての機能整備を推進するため、入院治療を実施する専門病棟（33床）を平成24年11月に開棟する。
- ・ 思春期医療など新たな精神科医療へ対応するとともに、施設の老朽化が進み耐震化が求められている精神医療センターの医療環境の改善を図るため、新棟の建築工事に着手する。

### (ウ) その他の施設整備の推進

こども医療センターにおいて、小児専門の三次医療機関として必須の豊富な知識と高度な医療技術を有する医療スタッフの確保、及び災害時の医療機能維持を目的に、医師宿舎の改修及び医療従事者宿舎を建設する。また、災害発生時に病院機能を確保、維持するため自家発電装置の更新を行う。

## (3) 地域医療連携の強化

- ・ 各病院において、紹介・逆紹介の推進や地域連携クリティカルパスの取組を引き続き行う。
- ・ 神奈川県立病院地域医療連携会議<sup>※24</sup>において、県立病院間における地域連携に係る課題抽出及び連携方策の検討を行うとともに、他医療機関との役割分担の明確化と連携の強化に取り組む。また、地域医療連携における他医療機関の需要を把握し、その支援を検討していく。

(参考) 紹介件数実績

病院名	平成22年度
足柄上病院	4,531件
こども医療センター	7,325件
芹香病院	335件
せりがや病院	260件
がんセンター	5,195件
循環器呼吸器病センター	3,822件



(参考) 逆紹介件数実績

病院名	平成22年度
足柄上病院	3,610件
こども医療センター	4,061件
芹香病院	352件
せりがや病院	211件
がんセンター	1,746件
循環器呼吸器病センター	3,279件

#### (4) 臨床研究の推進

##### ア 臨床研究

##### (7) がんセンター

- 臨床研究所研究員とがんセンター臨床各科の医師あるいは外部機関の研究員等とがんの早期発見、治療等についての共同研究を行う。その研究成果については、年度ごとの業績集の発行や成果報告会を開催して報告を行うとともに、英文原著論文や学会発表を行う。
- 病院内の対がん活動の状況を把握し、がんの早期発見と治療、予後の向上に役立てることにより、地域レベル、国レベルのがん対策や全国登録などの共同研究への参加を容易にして、研究・研修にも役立てるため、協力病院の院内がん登録の整備を進める。

(参考) 神奈川県がん登録事業の登録件数実績 (平成22年度) 57,762件

- 神奈川がん臨床研究・情報機構<sup>※25</sup>における腫瘍組織収集・試料提供事業を実施する。

[神奈川がん臨床研究・情報機構における腫瘍組織収集の実績と目標値]

平成22年度実績	平成24年度目標値
506件	540件

##### (イ) その他の病院における臨床研究の推進

- こども医療センターは、高い資質を持つ人材を任期付き研究員として採用し、疫学調査や疾患データベースの作成等、小児治験実施医療機関としての実績の向上を目指し、特殊検査機器の導入により高度な臨床研究体制を整備する。また、横浜市立大学との間で相互交流を行い、横浜市立大学と連携しこども医療センターの豊富な臨床症例を研究活動に生かすことで小児医療の質の向上を図る。
- 精神医療センターは、反復性経頭蓋磁気刺激法 (r TMS) や鍼灸の精神科医療への応用、物質依存に対する認知行動療法プログラムの研究に取り組む。
- 循環器呼吸器病センターは、まだ治療法が確立していない間質性肺炎について多くの症例を有していることから、その治療法の確立に向け、今まで蓄積してきた症例を活用するとともに、全国の病院と連携して病態解明に向けた研究に取り組む。

## イ 治験

### (ア) こども医療センター

- ・ 小児治験ネットワークの拡大・強化等により、他の医療機関と連携した小児医療の治験に取り組む。
- ・ 新たに導入する治験管理システムを活用し、効率化を図りつつ、治験を含む受託研究の拡大を推進する。

### (イ) その他の病院における治験の推進

各病院の特性及び機能を生かして治験を推進する。

(参考) 治験実施状況 (平成22年度実績)

病院名	治験受託件数	受託研究件数
足柄上病院	12件	44件
こども医療センター	15件	64件
芹香病院	9件	0件
がんセンター	37件	46件
循環器呼吸器病センター	28件	46件

## 2 安全で安心な医療の提供

### (1) 安全で安心な医療を支える医療体制の整備

- ・ 褥瘡発生防止体制の整備及び症例検討を通じた褥瘡ケアの技術水準の向上に取り組むなど、各県立病院の特性及び機能を生かした褥瘡防止に関する取組を推進する。
- ・ がんセンター及び循環器呼吸器病センターにおける7対1看護体制取得に向けて、採用試験実施回数の拡大や県外試験の実施等により、看護師確保を図る。

### (2) 医療安全対策の推進

各病院における医療安全体制をより一層充実させるため、医療安全推進室を病院機構の組織規程上の組織に位置付けるとともに、医療安全管理者会議等を活用し、各病院で発生した医療事故の発生原因や対策を共有化することにより、安全・安心な医療の実現に努める。

(参考) インシデント・アクシデント発生件数 (平成22年度実績)

区分		発生件数	区分小計	総発生件数
インシデント	0	894件	5,971件	6,699件
	1	5,077件		
アクシデント	2	655件	728件	
	3	72件		
	4	0件		
	5	1件		

### (3) 感染症対策の強化

- ・ 感染防止会議の開催による対策の徹底、院内感染防止マニュアルの見直し等の取組を引き続き行う。
- ・ 小児感染症、医療関連感染(B S I<sup>※26</sup>、S S I<sup>※27</sup>等)の発生状況を把握し、発生予防と拡大防止のための院内感染防止対策を強化する。
- ・ 院内感染防止対策の強化を図るため、他の医療機関と連携した感染防止対策に関するカンファレンスを開催、参加するなどの取組を推進する。
- ・ 新興感染症<sup>※28</sup>、新型インフルエンザ等の患者受入れに当たって、こども医療センターでは小児に特有な診療・治療を行う等、各病院の特性及び機能を生かした感染症に関する取組を推進する。

### (4) 災害対策の推進

- ・ 各病院で、災害発生時等に病院機能を確保、維持できるよう医薬品・災害用医療資材等の備蓄をするとともに、施設の点検及び更新、定期的に防災訓練等を実施する。

(参考) 防災訓練実施回数及び防災訓練参加者数の実績

区分	平成22年度
防災訓練実施回数	12回
防災訓練参加者数	2,316人

- ・ がんセンター及び精神医療センターの新病院の開棟・診療開始に向けて、免震構造による建物の建築工事を進める。
- ・ 災害時には、神奈川県医療救護計画に基づく県立病院救護班の編成、被災地等への派遣を実施する。
- ・ 足柄上病院は、県西地域医療圏における災害医療拠点病院として、災害時に患者の受入れ等を行う。

### (5) 情報セキュリティの強化

- ・ 人事給与システムをはじめとした業務システム等の利用基盤となる、本部事務局及び各病院を結ぶ情報ネットワークの運用にあたり、セキュリティ対策を行う。
- ・ 各所属に設置するファイルサーバのデータのバックアップを自動的に取得するとともに、定期的に遠隔地に保管する。
- ・ 情報セキュリティポリシーに対する理解を深めるとともに、日常業務における情報管理のポイントや注意事項を周知するため、職員を対象に情報セキュリティ研修を実施する。
- ・ こども医療センターは、医療情報管理室を設置し、各医療情報システムのセキュリティ対策を一体的に運用管理する。

### 3 患者の視点に立った病院運営

#### (1) 患者にとって分かりやすい医療の提供

- ・ 診療計画書を利用して治療内容を説明する等、患者への十分な説明と同意による医療（インフォームドコンセント）を推進する。
- ・ 各県立病院におけるクリティカルパス<sup>※14</sup>の適用状況の調査分析を踏まえて、クリティカルパス適用拡大を図る。
- ・ こども医療センターにおいては、電子カルテシステム導入に伴いクリティカルパスの電子化を図る。

(参考) クリティカルパスの作成件数実績

病院名	平成22年度
足柄上病院	66件
こども医療センター	28件
芹香病院	3件
せりがや病院	2件
がんセンター	50件
循環器呼吸器病センター	18件

- ・ 地域医療連携室等で、経済的問題や家庭環境に係る医療福祉相談等、多様な相談を実施する。
- ・ がんセンター相談支援室及び神奈川がん臨床研究・情報機構情報センターにおいて、がんに関する医療・福祉等の幅広い電話相談に応じる。

(参考) がんセンターにおける電話相談件数実績（平成22年度）6,879件

- ・ 患者がより良い治療方法を自己決定できるように、ホームページによる案内に努める等、セカンドオピニオン<sup>※29</sup>を推進する。

(参考) セカンドオピニオン件数実績

病院名	平成22年度
足柄上病院	1件
こども医療センター	39件
芹香病院	2件
がんセンター	686件
循環器呼吸器病センター	43件

- ・ 県民の意見を反映し、患者の視点に立った病院運営を実現するため、各病院で患者満足度調査等を実施し、全体的な病院の評価（総合的な満足度）の結果を公表する。

## (2) 県民への病院・医療情報提供の充実

- ・ 県民に県立病院が身近なものとして感じられるよう公開講座等を通じて、疾患・予防等に関する知識の普及、啓発を行うとともに、県立病院が行う治療の方法や実績、がんの診断や治療に関する情報等を、ホームページや広報誌等を通じて提供する。
- ・ ホームページについては、見やすさとともに、県民が必要とする情報を得やすくするための改善を引き続き行う。

[公開講座の実績と目標値]

病院名	平成22年度実績	平成24年度目標値
足柄上病院	12回	18回
こども医療センター	9回	9回
芹香病院	4回	5回
せりがや病院	1回	1回
がんセンター	6回	4回
循環器呼吸器病センター	10回	8回

## (3) 患者の利便性の向上

- ・ 各病院において、待ち時間の実態調査を実施し、待ち時間の改善に取り組むとともに、患者が待ち時間を負担に感じさせない取組を引き続き行う。
- ・ 支払方法の選択範囲を拡げるとともに、支払待ち時間を短縮して患者等が診療終了後速やかに病院から帰れるようにするため、デビットカードサービスの利用、コンビニエンスストア収納、休日・時間外における支払窓口の開設等を引き続き行う。
- ・ こども医療センターは、医事会計システムの更新に伴い、障害児入所施設に係る本人負担分について窓口会計で支払いを可能とし、引き続き患者の利便性の向上を図る。

## (4) ボランティア・NPOとの協働

- ・ ボランティアの協力を得て、県立病院の案内業務や患者のレクリエーション活動、療養の支援等を実施する。
- ・ 通訳ボランティアによる外国籍患者への支援を進める。
- ・ こども医療センター入院患者の家族滞在施設（リラのいえ）について、利用希望者等からの利用相談や紹介等を通じて運営の支援を行う。
- ・ こども医療センターは、患者の療養の支援を図る取組を進めるため、NPOからセラピードックの派遣を受け入れる。

## 4 医療人材の確保・育成

### (1) 医師の確保と育成

- ・ 連携協力のある大学医学部の医局ローテーションを医師確保の基礎としつつ、公募や医師の人的ネットワークも活用して、優秀な人材を確保する。
- ・ 専門性の向上につながる魅力的な教育・研修体制を充実させるなど、後期臨床研修医の積極的な受入れに努める。
- ・ こども医療センターは、横浜市立大学との間でこども医療センターの医師が大学院生の教育・指導、横浜市立大学院生がこども医療センターの研修医としての研究、こども医療センターの研修医が大学院生としての受講を行うことを目的とした相互交流による連携大学院制度を推進し、医師の育成体制を強化する。

### (2) 看護師の確保と育成

- ・ 県立看護専門学校や保健福祉大学と連携して学生向け説明会を実施し、受験を促進するとともに、採用試験実施回数の拡大や県外試験の実施等により、7対1看護体制取得に向けて看護師確保を図る。

[看護師採用必要数]

平成24年4月1日看護師数（見込）	1,510人
欠員数（要補充）（A）	12人
平成24年度退職見込数（過去3年の平均）（B）	146人
平成24年度必要数（C）	49人
平成24年度採用必要数（A+B+C）	207人

（注）この必要数は、中期計画策定時の目標病床利用率に基づき、7対1看護体制を取得するために必要な人員をすべて常勤職員で確保すると仮定した場合のものである。

- ・ 看護師等の養成施設に在学する者に修学資金を貸付けることで、その者の修学を容易にし、病院機構の病院に勤務する環境を整えることを目的とした修学資金貸付制度を実施する。
- ・ 看護師の教育・研修体制の充実、プリセプターシップ<sup>※30</sup>の実施等により、看護師の育成とその定着を図る。

[新卒看護師離職率の実績と目標値]

区分	平成22年度実績	平成24年度目標値
病院機構の新卒看護師採用人数	93人	—
病院機構の新卒看護師退職人数	8人	—
病院機構の新卒看護師離職率	8.6%	9.5%未満
神奈川県の新卒看護師平均離職率	8.8%	—
全国の新卒看護師平均離職率	8.1%	—

（注）神奈川県及び全国の新卒看護師平均離職率は、社団法人日本看護協会の「2011年病院看護実態調査」結果速報の公表値とする。

- ・ 専門看護師<sup>※31</sup>及び認定看護師<sup>※32</sup>の資格を有する看護師を積極的に活用する等、専門能力を称揚する取組により、その専門能力向上を促進する。

(参考) 専門看護師等の有資格者数実績

区分	平成22年度
専門看護師 <sup>※31</sup>	10人
認定看護管理者 <sup>※33</sup>	4人
認定看護師 <sup>※32</sup>	53人
精神科認定看護師 <sup>※34</sup>	5人
計	72人

- ・ 看護専門学校等との連携の下に、看護学生の実習受入れ拡大を図る。

(参考) 看護実習受入実績

区分	平成22年度
保健福祉大学	139人
衛生看護専門学校	241人
よこはま看護専門学校	501人
平塚看護専門学校	93人
その他	682人
計	1,656人

### (3) コメディカル職員等の確保と研修の充実

- ・ 採用時期を適切に設定する等、各病院の状況に応じて必要な職員を迅速に確保する。
- ・ 職員の資質の向上を図るため、病院の実態や職員の能力・経験等を踏まえた研修を実施する。
- ・ 研修の実施に当たっては、専門的な知識を得られるよう内部研修だけでなく、研修に要するコスト、時間、人的リソース、ノウハウ等を踏まえて、県機関、学会等が実施する外部研修を活用する。
- ・ 平成27年中の重粒子線治療開始に当たり円滑な運営を行うため、診療放射線技師を先行して重粒子線治療を行っている施設への派遣研修による人材育成を計画的に行う。

### (4) 勤務環境の改善

- ・ 医療従事者が安心して子育てし、働き続けることができるよう、院内24時間保育を実施する。
- ・ こども医療センターにおいて、小児専門の三次医療機関として必須の豊富な知識と高度な医療技術を有する医療スタッフの確保、及び災害時の医療機能維持を目的に、医師宿舎の改修及び医療従事者宿舎を建設する。

- ・ 職員のワークライフバランスに資するため、現行の時差出勤制度の見直しの検討や、年次有給休暇の取得促進に向けた取組を行う。
- ・ 各病院の業務の実態に応じた時間外勤務の縮減を図るなど、労働時間の適正化に向け、業務見直しを進めるとともに、職員の意識啓発や、タイムマネジメントの研修を開催するなどの取組を行う。
- ・ 短時間勤務常勤職員や夜間専従常勤職員など、ワークライフバランスを充実するための多様な勤務形態の導入について検討する。

## 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

### 1 業務運営体制の確立

- ・ 理事会による法人の運営体制の下に、各病院の理事が与えられた権限を適切に行使することにより、各病院の自律性を発揮した医療機能の充実及び経営改善に向けた取組をより一層進め、法人全体の経営基盤の強化を図る。
- ・ 理事長、副理事長、理事、各病院の長並びに本部事務局及び各病院の経営企画機能の統括を担う職員等で構成する経営会議を中心に、各病院の経営状況の情報の共有化を図るとともに、病院別の四半期ごとの執行状況を踏まえた経営分析等を行い、病院業務の効率化等、経営改善に向けた取組をより一層推進し、中期目標等に掲げる取組を着実に進める。
- ・ 病院機構独自の人事給与システムを開発・導入し、神奈川県の人件給与システムを暫定利用していた運用体制を改める。
- ・ 新システムに登録されたデータを利用して集計作業や資料作成の効率化を図るとともに、業務運営体制の基礎資料として活用する。

## 2 効率的・効果的な業務運営と経営改善

### (1) 効率的・効果的な業務運営

#### ア 人事・予算の弾力的運用

中期目標及び中期計画の枠の中で、医療ニーズに迅速に対応するため、人事・予算等を弾力的に運用できる制度を活用した取組を行う。

#### (7) 診療体制・人員配置の弾力的運用

正規職員の採用や医師等医療スタッフの配置を弾力的に行うとともに、契約職員や非常勤職員等、正規職員以外の雇用形態を含む多様な医療専門職の活用等を行う。

#### (イ) 予算執行の弾力化

中期計画の枠の中で、予算科目間、節間及び年度間で弾力的に運用できる会計制度を活用し、医療ニーズに迅速に対応した予算執行を行う。



## イ 事務職員の専門性の向上

- ・ 病院経営や診療報酬等の病院特有の事務を行うため、一般の採用試験とは別に、経験者を対象とした採用試験を実施する。
- ・ 事務職員については、業務を通じて専門的な知識や能力を高めるとともに、診療報酬事務、会計事務及び病院経営に係る企画・経営分析能力の向上を図る研修を実施し専門性を高める。
- ・ 事務職員としての経験年数、専門性を考慮した研修カリキュラムを整備する。

## ウ 職員の経営参画意識の向上

- ・ 病院経営に係る企画・経営分析能力等の向上を図る研修を充実することにより、職員の経営参画意識の醸成を図る。
- ・ 経営に対する職員の意識を高め、経営への参加を促すため、業務改善、経営の効率化、増収・経費節減等に関する職員提案を行い、優良取組について理事長表彰を行う。
- ・ 各県立病院の経営改善の取組をすべての病院で共有するため、病院が開催する経営会議に他病院の事務職員等が参加する取組を行うとともに、経営企画課長と理事長との自由意見交換会を開催する。

## エ ITの活用による効率的な医療提供の推進

- ・ こども医療センターにおいて、電子カルテシステムを稼働させ、医療情報の総合的管理を推進する。
- ・ 精神医療センター及び循環器呼吸器病センターにおいて、電子カルテシステムの導入に向けた調査を行う。

## オ 効率的な事務執行の推進

- ・ 医薬品・検査試薬・診療材料について、共同あっせん調達を実施する。
- ・ 医薬品等の廉価購入を図るため、他病院等の購入価格を比較できるベンチマークシステムを活用する。
- ・ 各病院で共通して使用する消耗品等の一部の調達について、リバースオークション<sup>※35</sup>を試行する。

## (2) 経営改善の取組

### ア 収益の確保

より多くの県民に県立病院の医療を提供するため、地域の医療機関との連携の強化に取り組み紹介患者などの入院実患者数を確保するとともに、クリティカルパスの適用範囲の拡大、ベッドコントロール等による病床管理の弾力化等の取組により、平均在院日数の短縮及び病床利用率の向上を図る。

[病床利用率・平均在院日数・入院実患者数の目標値（平成24年度）]

病院名	病床利用率	平均在院日数	入院実患者数
足柄上病院	78.0%	12.3日	6,100人
こども医療センター（病院） （施設）	85.8%	15.4日	6,687人
	84.9%	(89.7日)	311人
芹香病院	79.9%	126.4日	613人
せりがや病院	70.9%	67.0日	309人
がんセンター	77.8%	14.4日	8,000人
循環器呼吸器病（一般） センター（結核）	82.9%	13.5日	4,000人
	62.8%	(62日)	220人

(注) こども医療センター障害児入所施設及び循環器呼吸器病センター結核病棟については、施設の目的から平均在院日数の短縮に取り組むべき施設ではないため、その目標値は設定しない。

(参考) 病床利用率・平均在院日数・入院実患者数の実績（平成22年度）

病院名	病床利用率	平均在院日数	入院実患者数
足柄上病院	76.2%	12.3日	5,968人
こども医療センター（病院） （施設）	82.6%	14.7日	6,757人
	85.2%	(69.1日)	405人
芹香病院	74.8%	122.6日	686人
せりがや病院	65.9%	60.1日	320人
がんセンター	76.0%	14.9日	7,753人
循環器呼吸器病（一般） センター（結核）	84.7%	13.1日	4,211人
	64.5%	(58.6日)	241人

- 平成24年度診療報酬の改定に迅速に対応するとともに、各病院の特性に応じて、診療報酬上の新たな施設基準を取得する。
- 患者の状況に応じたきめ細かな相談や督促・催告の実施等による未収金の発生防止、医事課と相談部門との連携による回収、未収金回収専門員による出張回収、診療報酬請求漏れの防止等、適正な診療報酬を確保するための総合的な取組を実施する。

## イ 費用の削減

- ・ 後発医薬品情報の収集に医薬品管理システムを活用するとともに、後発医薬品の利用状況把握と有効な切替方策を検討して、後発医薬品の使用拡大を図る。

[後発医薬品の品目採用率及び金額採用率の実績]

区分	平成22年度実績
後発医薬品の品目採用率	12.2%
後発医薬品の金額採用率	5.6%

- ・ 購入価格の決定については、他病院等の購入価格を比較できるベンチマークシステムを活用し、可能な限り廉価で購入する。
- ・ 各病院で共通して使用する消耗品等の一部の調達について、リバースオークション<sup>※35</sup>を試行する。
- ・ 財務会計システムにより、最新の執行状況を把握し、効率的かつ計画的な執行を行い費用の削減を図る。
- ・ 物流管理の見直しなど、物品の適正な在庫管理に努めることにより、費用の削減を図る。

### 第3 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

#### 1 予算（平成24年度）

（単位：百万円）

区分	金額（税込）
収入	
営業収益	47,284
医業収益	35,880
運営費負担金収益	10,513
その他営業収益	890
営業外収益	833
運営費負担金収益	384
その他営業外収益	449
臨時利益	2
資本収入	9,574
長期借入金	9,172
運営費負担金収入	267
その他資本収入	135
その他の収入	0
計	57,692
支出	
営業費用	46,764
医業費用	45,747
給与費	23,565
材料費	10,025
経費	7,810
減価償却費	2,662
その他医業費用	1,684
一般管理費	411
その他営業費用	606
営業外費用	699
臨時損失	57
資本支出	12,728
建設改良費	10,264
地方債償還金	2,443
その他資本支出	21
その他の支出	0
計	60,248

（注1）計数は、端数をそれぞれ四捨五入している。

（注2）中期目標期間中の診療報酬の改定や給与改定等の変動は考慮していない。

#### 【運営費負担金の算定ルール】

救急医療等の行政的経費及び高度医療等の不採算経費については、地方独立行政法人法第85条第1項の規定を基に算定された額とする。

## 2 収支計画（平成24年度）

### (1) 県立病院機構全体

（単位：百万円）

区分	金額（税抜）
収入の部	48,065
営業収益	47,244
医業収益	35,841
運営費負担金収益	10,513
その他営業収益	890
営業外収益	818
運営費負担金収益	384
その他営業外収益	435
臨時利益	2
支出の部	47,467
営業費用	46,711
医業費用	45,293
給与費	23,550
材料費	9,990
経費	7,433
減価償却費	2,662
その他医業費用	1,657
一般管理費	408
その他営業費用	1,010
営業外費用	699
臨時損失	57
純利益	598
目的積立金取崩額	0
総利益	598

（注）計数は、端数をそれぞれ四捨五入している。

経常収支比率 101.4%

医業収益に対する給与費の比率 69.4%

医業収支比率 126.4%

## (2) 足柄上病院

(単位：百万円)

区分	金額 (税抜)
収入の部	6,568
営業収益	6,399
医業収益	4,896
運営費負担金収益	1,450
その他営業収益	53
営業外収益	169
運営費負担金収益	105
その他営業外収益	64
臨時利益	0
支出の部	6,668
営業費用	6,494
医業費用	6,369
給与費	3,814
材料費	1,046
経費	978
減価償却費	520
その他医業費用	11
一般管理費	0
その他営業費用	125
営業外費用	169
臨時損失	4
純利益	△100
目的積立金取崩額	0
総利益	△100

(注) 計数は、端数をそれぞれ四捨五入している。

経常収支比率 98.6%

医業収益に対する給与費の比率 77.9%

医業収支比率 130.1%

### (3) こども医療センター

(単位：百万円)

区分	金額 (税抜)
収入の部	15,656
営業収益	15,453
医業収益	11,613
運営費負担金収益	3,571
その他営業収益	269
営業外収益	203
運営費負担金収益	137
その他営業外収益	66
臨時利益	0
支出の部	15,099
営業費用	14,828
医業費用	14,504
給与費	7,152
材料費	2,865
経費	2,029
減価償却費	1,106
その他医業費用	1,353
一般管理費	0
その他営業費用	324
営業外費用	247
臨時損失	23
純利益	558
目的積立金取崩額	0
総利益	558

(注) 計数は、端数をそれぞれ四捨五入している。

経常収支比率 103.9%

医業収益に対する給与費の比率 69.9%

医業収支比率 124.9%

#### (4) 芹香病院

(単位：百万円)

区分	金額 (税抜)
収入の部	4,068
営業収益	4,052
医業収益	2,213
運営費負担金収益	1,341
その他営業収益	498
営業外収益	16
運営費負担金収益	1
その他営業外収益	15
臨時利益	0
支出の部	4,117
営業費用	4,100
医業費用	4,048
給与費	2,977
材料費	368
経費	601
減価償却費	94
その他医業費用	7
一般管理費	0
その他営業費用	52
営業外費用	15
臨時損失	2
純利益	△49
目的積立金取崩額	0
総利益	△49

(注) 計数は、端数をそれぞれ四捨五入している。

経常収支比率 98.9%

医業収益に対する給与費の比率 134.5%

医業収支比率 182.9%



## (5) せりがや病院

(単位：百万円)

区分	金額 (税抜)
収入の部	898
営業収益	888
医業収益	507
運営費負担金収益	379
その他営業収益	3
営業外収益	9
運営費負担金収益	4
その他営業外収益	5
臨時利益	0
支出の部	943
営業費用	931
医業費用	921
給与費	671
材料費	92
経費	120
減価償却費	37
その他医業費用	1
一般管理費	0
その他営業費用	10
営業外費用	12
臨時損失	0
純利益	△45
目的積立金取崩額	0
総利益	△45

(注) 計数は、端数をそれぞれ四捨五入している。

経常収支比率 95.2%

医業収益に対する給与費の比率 132.4%

医業収支比率 181.7%

## (6) がんセンター

(単位：百万円)

区分	金額 (税抜)
収入の部	13,501
営業収益	13,423
医業収益	11,013
運営費負担金収益	2,358
その他営業収益	52
営業外収益	78
運営費負担金収益	50
その他営業外収益	28
臨時利益	0
支出の部	13,123
営業費用	13,005
医業費用	12,678
給与費	6,007
材料費	4,030
経費	1,936
減価償却費	501
その他医業費用	205
一般管理費	0
その他営業費用	326
営業外費用	106
臨時損失	13
純利益	378
目的積立金取崩額	0
総利益	378

(注) 計数は、端数をそれぞれ四捨五入している。

経常収支比率 103.0%

医業収益に対する給与費の比率 54.5%

医業収支比率 115.1%

## (7) 循環器呼吸器病センター

(単位：百万円)

区分	金額 (税抜)
収入の部	7,117
営業収益	7,003
医業収益	5,598
運営費負担金収益	1,390
その他営業収益	15
営業外収益	114
運営費負担金収益	86
その他営業外収益	28
臨時利益	0
支出の部	6,638
営業費用	6,482
医業費用	6,326
給与費	2,929
材料費	1,590
経費	1,358
減価償却費	384
その他医業費用	65
一般管理費	0
その他営業費用	156
営業外費用	143
臨時損失	13
純利益	479
目的積立金取崩額	0
総利益	479

(注) 計数は、端数をそれぞれ四捨五入している。

経常収支比率 107.4%

医業収益に対する給与費の比率 52.3%

医業収支比率 113.0%

## (8) 本部事務局

(単位：百万円)

区分	金額 (税抜)
収入の部	257
営業収益	26
医業収益	0
運営費負担金収益	26
その他営業収益	0
営業外収益	229
運営費負担金収益	0
その他営業外収益	229
臨時利益	2
支出の部	879
営業費用	872
医業費用	447
給与費	0
材料費	0
経費	412
減価償却費	20
その他医業費用	15
一般管理費	408
その他営業費用	16
営業外費用	6
臨時損失	2
純利益	△623
目的積立金取崩額	0
総利益	△623

(注) 計数は、端数をそれぞれ四捨五入している。

### 3 資金計画（平成24年度）

（単位：百万円）

区分	金額（税込）
資金収入	62,097
業務活動による収入	47,812
診療活動による収入	35,880
運営費負担金による収入	10,897
その他の業務活動による収入	1,034
投資活動による収入	402
運営費負担金による収入	267
その他の投資活動による収入	135
財務活動による収入	9,172
長期借入れによる収入	9,172
その他の財務活動による収入	0
前事業年度よりの繰越金	4,712
資金支出	62,097
業務活動による支出	44,985
給与費支出	25,205
材料費支出	10,636
その他の業務活動による支出	9,143
投資活動による支出	10,264
有形固定資産の取得による支出	10,264
その他の投資活動による支出	0
財務活動による支出	2,443
移行前地方債償還債務の償還による支出	2,229
長期借入金の返済による支出	214
その他の財務活動による支出	0
翌事業年度への繰越金	4,406

（注）計数は、端数をそれぞれ四捨五入している。

## 第4 短期借入金の限度額

### 1 限度額

3,000百万円

### 2 想定される短期借入金の発生理由

賞与の支給等、資金繰り資金への対応

## 第5 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

なし

## 第6 剰余金の使途

決算において剰余が発生した場合は、病院施設の整備、医療機器の購入等に充てる。

## 第7 その他業務運営に関する重要事項

### 人事に関する事項

#### (1) 適切な職員配置

- ・ 事務職員については、その専門性を高めるとともに、法人、病院の経営企画機能の強化を目指した職員配置を図る。
- ・ 医療従事者については、医師等スタッフの配置の弾力化、多様な雇用形態の活用等により、医療ニーズの変化及び患者動向に適切に対応した効果的な人員配置を行う。
- ・ がんセンターの重粒子線治療施設について、平成27年中の治療開始に向けた計画的な人員配置を行う。
- ・ 精神医療センターの総合整備に向けて、必要な人員配置を行う。
- ・ こども医療センターは、臨床研究所で一定期間継続する高度な研究プロジェクトのために、当該期間に限定し、研究者として質の高い資質を持つ人材を任期付研究員として採用する。

#### (2) 的確な人事管理

医師や看護師等医療従事者の職務実態を踏まえた評価項目、評価要素を活用することにより、職員の職務遂行を通じて発揮された臨床能力や組織運営力を的確に把握し、職員がよりステップアップした能力開発や活用に繋げていくための仕組みとして、病院に相応しい人事評価システムを構築し、平成24年度から実施する。

## 病院機構の共通指標

## 1 患者サービス（患者の視点に立った病院経営）

指標項目	計測内容 (趣旨・算定方法)	目標値	実績値
患者満足度の把握 (患者満足度調査)	<p>患者の意見を反映し、患者の視点に立った病院運営を実現するための指標</p> <p>&lt;算定方法&gt;  <b>【分子】</b>            患者満足度調査中「総合的な評価な項目」に「満足・やや満足（この病院を知人等に勧める）」と回答した患者の総数  <b>【分母】</b>            患者満足度調査中「総合的な評価な項目」回答患者総数（入院・外来別）</p>	—	○
地域医療連携室等の相談件数	<p>医療、福祉等の多様な相談の実施状況は、患者、家族が安心して医療が受けられる患者のQOL（生活の質）の向上に寄与する指標</p> <p>&lt;算定方法&gt;            地域医療連携室等で患者、家族から受けた相談件数</p>	—	○

## 2 標準的医療の推進

指標項目	計測内容 (趣旨・算定方法)	目標値	実績値
クリティカルパスの設定数	<p>主に入退院に必要な検査、治療、ケア等の診療計画を可視化することで、患者の理解と同意を得るなど、インフォームドコンセントの取組状況を測る指標</p> <p>&lt;算定方法&gt;            クリティカルパスの設定数</p>	—	○
退院サマリーの2週間以内完成率	<p>転院等において、患者が適切な診療を受けるための病院の取組状況を測る指標</p> <p>&lt;算定方法&gt;  <b>【分子】</b>            担当医が退院後2週間以内に退院サマリーを作成した件数  <b>【分母】</b>            退院実患者数</p>	80%以上	○

### 3 医療安全・予防医療の取組

指標項目	計測内容 (趣旨・算定方法)	目標値	実績値
ヒヤリ・ハット事例及び医療事故の発生・報告状況	インシデント・アクシデントレポートの収集・分析を通じて、医療事故につながる可能性のある潜在的なリスクを把握し、その予防・改善対策等に取り組む医療安全状況を測る指標 <算定方法①> ヒヤリ・ハット事例及び医療事故の発生件数 <算定方法②> <b>【分子】</b> ヒヤリ・ハット事例発生件数又は医療事故発生件数 <b>【分母】</b> ヒヤリ・ハット事例及び医療事故の発生件数	—	○
褥瘡患者発生率	褥瘡発生防止に関する取組は、患者のQOL（生活の質）の向上に寄与するとともに、良質な医療の提供や看護ケアの質を測る指標 <算定方法> <b>【分子】</b> ①新規褥瘡発生患者数（こども医療センターを除く。） ②新規褥瘡発生件数（こども医療センターに限る。） <b>【分母】</b> ①前月末日の在院患者数と当該月新規入院患者数の合計 ②延べ入院患者数（こども医療センターに限る。）	—	○

### 4 人材育成と教育

指標項目	計測内容 (趣旨・算定方法)	目標値	実績値
新卒看護師離職率	県民に対し、医療を継続的に提供するため、看護師の人材確保に向け、定着できる環境づくりに向けた対策を立案・実践している状況を測る指標 <算定方法> <b>【分子】</b> 当該年度の新卒看護師のうち、当該年度中に退職した人数 <b>【分母】</b> 当該年度に採用した新卒看護師の総数	9.5%未満	○
専門・認定看護師数	県立病院において高度・専門医療を提供するため、特定の看護領域において優れた看護技術と知識を有する看護師の育成状況を測る指標 <算定方法> 次の資格を有する看護師の人数 ①専門看護師、②認定看護管理者、③認定看護師、 ④精神科認定看護師	—	○



## 各病院の専門性・特性に応じた指標

## 1 足柄上病院

指標項目	計測内容 (趣旨・算定方法)	目標値	実績値
糖尿病患者の血糖コントロールHbA1c < 6.9	糖尿病の指導・薬物治療の質の向上を測る指標 <算定方法> 【分子】 HbA1c < 6.9の患者数 【分母】 インスリン又は経口血糖降下薬を処方されている患者数	50%	○
心筋梗塞の治療開始時間 (Door to Balloon Time)	急性心筋梗塞の遅滞ない治療を目指す指標 <算定方法> 【分子】 来院から初回冠動脈拡張術までの時間が90分以内の患者数 【分母】 緊急冠動脈形成術施行患者数	55%	○
地域がん登録の登録率	地域におけるがん患者の情報を登録した割合を示す指標 <算定方法> 【分子】 地域がん登録をしたがん患者数 【分母】 全がん治療患者数	80%	○

## 2 こども医療センター

指標項目	計測内容 (趣旨・算定方法)	目標値	実績値
1歳未満乳児外科施設基準対象手術件数	厚生労働省告示の施設基準に定められた1歳未満の乳児に対する手術の実施件数により、外科系医療技術水準を示す指標 <算定方法> 1歳未満乳児外科施設基準対象手術件数	105件	○
ハイリスク妊娠取扱率	分娩件数に占めるハイリスク患者の受入れ率により、総合周産期母子医療センターとして本県の周産期医療において果たす役割を評価する指標 <算定方法> 【分子】 ハイリスク妊娠管理加算又はハイリスク分娩管理加算の算定対象患者数 【分母】 全分娩件数	29%	○

患者・家族の意見を反映させた看護計画実施率	入院患者とその家族の意見を反映させた個別性のある看護ケアの実施状況、看護の質的向上を測る指標 ＜算定方法＞ 【分子】 患者・家族の意見を反映させた看護計画の実施患者数 【分母】 クリティカルパス適用及び一日入院患者を除いた入院実患者数	70%	○
在宅療養指導実施件数	在宅で医療的ケアを継続して実施している患者・家族に対する支援の実施状況、外来患者に対する看護の質的向上を測る指標 ＜算定方法＞ 在宅療養指導実施件数	1,200件	○

### 3 芹香病院

指標項目	計測内容 (趣旨・算定方法)	目標値	実績値
医療観察法の通院医療延患者数	通院延患者数を示すことにより、県立の精神科病院で担っている医療観察法に基づく指定通院病院の役割を示す指標 ＜算定方法＞ 1年間の通院延患者数	1,056人	○
全県における救急病棟の措置入院の受入率	全県の措置入院延件数に対する措置入院の受入率により、24時間精神科救急における基幹病院としての役割を示す指標 ＜算定方法＞ 【分子】 1年間の措置入院延件数 【分母】 1年間の全県の延措置入院延件数	20%	○
外来患者への訪問看護延件数	外来患者への訪問看護延件数により、患者が地域で生活するための支援の状況を示す指標 ＜算定方法＞ 1年間に訪問看護した延件数	2,500件	○

### 4 せりがや病院

指標項目	計測内容 (趣旨・算定方法)	目標値	実績値
初診患者の紹介率	初診患者延数における紹介率により、依存症治療における地域との医療機関の連携・協力状況を示す指標 ＜算定方法＞ 【分子】 1年間の紹介患者延数 【分母】 1年間の初診患者延数	40%	○

## 5 がんセンター

指標項目	計測内容 (趣旨・算定方法)	目標値	実績値
主たる手術の包括算定の対象入院期間Ⅱ以内の割合	D P C参加病院の平均入院期間であるⅡ以内の割合により質の高い医療の提供を示す指標 <算定方法> 【分子】 包括算定の対象入院期間Ⅱ以内の手術数 (①肺の悪性腫瘍、②胃の悪性腫瘍、③乳房の悪性腫瘍) 【分母】 手術数	①肺の悪性腫瘍 90%以上  ②胃の悪性腫瘍 90%以上  ③乳房の悪性腫瘍 70%以上	○
歯科口腔ケアの取り組み	歯科口腔ケアの充実を図ることで、術後合併症の発生リスクの逓減状況を測る指標 <算定方法> 歯科口腔ケアの実施数	200例	○
英文原著論文数及びそのインパクトファクター(I F)	研究部門(臨床研究所)における高い研究の成果を表わす指標 <算定方法> 英文原著論文数とそれら論文の掲載誌の引用頻度の統計学的な指標である I F の総和	—	○
専門看護外来患者数	専門看護師の活用を図り、質の高い医療の提供を測る指標 <算定方法> 専門看護外来受診患者数	2,000人	○

## 6 循環器呼吸器病センター

指標項目	計測内容 (趣旨・算定方法)	目標値	実績値
急性心筋梗塞患者における病院到着から P C I による再開通までの時間	急性心筋梗塞の治療の質の向上を測る指標 <算定方法> 【分子】 来院から初回冠動脈拡張術までの時間が90分以内の患者数 【分母】 緊急冠動脈形成術施行患者数	80%以上	○
心臓MR I 検査の実施件数	狭心症の診断や心不全に対するより質の高い心機能評価を行う指標 <算定方法> 心臓MR I (単純) 検査を実施した患者数	450件	○

リハビリテーションの実施件数	<p>心疾患及び呼吸器疾患に対するリハビリテーションの実施により、再発防止、早期退院及び生活の質的向上を測る指標</p> <p>&lt;算定方法&gt;</p> <p>心疾患及び呼吸器疾患に対するリハビリテーション実施件数</p>	<p>心臓リハビリテーション 2,200件</p> <p>呼吸器リハビリテーション 2,850件</p>	○
----------------	---	--	---

## 備考

- ※1 **バーセルインデックス (Barthel Index : 機能的評価)** 日常生活動作における 障害者や高齢者の機能的評価する方法のひとつである。食事、移乗、整容、トイレ動作、入浴、移動、階段昇降、更衣、排便自制、排尿自製の10項目を、それぞれ自立、部分介助など数段階の自立度で評価する
- ※2 **I C U (Intensive Care Unit: 集中治療室)** 呼吸、循環、代謝その他の重篤な急性機能不全の患者の治療のため、人工呼吸器その他常時患者を監視できる必要な設備を整え、医師、看護師を配置して、24時間体制で診療を行う医療施設をいう。
- ※3 **H C U (High Care Unit:ハイケアユニット: 準集中治療室、集中管理病棟、重症患者病棟)** 高度で緊急を要する医療を行うための病室をいう。I C U病床 (超急性期病床) と一般病棟の中間に位置付けられている。
- ※4 **アキュートペインサービス** 処置や検査によって生じる痛みや不安などの精神的負担を緩和する医療ケアをいう。特に、小児医療の分野でその必要性が高まっている。
- ※5 **周産期救急医療** 周産期とは妊娠満22週から生後1週以内までの期間をいい、母体・胎児・新生児を総合的に管理した医療体制が必要なことから、この期間における救急医療を他の救急医療と区別して、周産期救急医療という。
- ※6 **N I C U (Neonatal Intensive Care Unit : 新生児集中治療室)** 新生児疾患の診断、治療のため、保育器、人工呼吸器その他新生児集中治療に必要な設備を備え、医師、看護師を配置して、24時間体制で診療を行う医療施設をいう。
- ※7 **超低出生体重児** 生まれたときの体重が1,000 g未満の児をいう。未熟性が強く、体温、呼吸を含めた高度な全身管理を必要とする。
- ※8 **戻り搬送** こども医療センターで急性期の治療を受け、状態が安定した患者が他医療機関へ転院する際に医師が同乗して行う患者搬送をいう。N I C Uの効率的・効果的な運用を目的として、地域医療機関との連携により、実施している。
- ※9 **都道府県がん診療連携拠点病院** がんに関する診療の体制や設備、情報提供、他の医療機関との連携等について国が定めた基準を満たし、がん診療の質の向上及び医療機関の連携協力体制の構築に関し各都道府県の中心的な役割を担う病院として、都道府県知事による推薦を基に、厚生労働大臣から指定された病院をいう。
- ※10 **P C I (Percutaneous Coronary Intervention : 経皮的冠動脈インターベンション)** 狭窄した心臓の冠動脈を拡張し、血流の増加を図る治療をいう。
- ※11 **カテーテルアブレーション** 不整脈に対する非薬物治療法のひとつ。先端に電極のついたカテーテルを血管から心臓内に挿入し、不整脈の原因となっている組織を摂氏50～60℃の熱で焼灼する。心筋焼灼術をいう。
- ※12 **多剤耐性結核** 通常主に使用される抗結核薬のうち、I N H (イソニコチン酸ヒドラジッド) とR F P (リファンピシン) の2つの抗結核薬が効かなくなった結核のことをいい、この2つの薬が効かなくなると治療が困難となり、食事や運動等を含めた総合的な治療が必要となる。

- ※13 **DOTS (Direct Observed Treatment, Short-course:直接監視下短期化学療法)** 医療従事者の目の前で、患者が確実に薬を服用することを確認し、完全に治癒するまでを支援することをいう。
- ※14 **クリティカルパス** 医療の効率化や質の管理、チーム医療の推進を目的として、主に入院患者に対し、必要な検査、治療、ケア等の予定を示す診療スケジュール表をいう。
- ※15 **退院サマリー** 患者の病歴や入院時の身体所見、検査所見、入院治療経過等、入院中に実施した医療内容を簡明に要約した入院診療録概要の通称である。
- ※16 **ヒヤリ・ハット事例** 日常診療の場で、患者に医療又は管理を行う上で、ヒヤリとしたり、ハットした経験を有する事例（災害等に起因するものを除く。）で、医療事故に至らなかったものをいう。
- ※17 **医療事故** 医療に関わる場所で実施された医療又は管理により、予期せず患者が死亡し、若しくは患者に心身の障害が残った事例又は予期しなかった、若しくは予期していたものを上回る処置その他の治療を要した事例（災害等に起因するものを除く。）をいう。
- ※18 **新卒看護師** 当該年度当初に採用した看護師のうち、看護師養成施設等を卒業し、かつ看護職未経験の者をいう。
- ※19 **HbA1c (ヘモグロビン・エイワンシー)** ヘモグロビン（血色素）とブドウ糖とが結合したものである。ヘモグロビンは、赤血球中のタンパク質の一種で、ブドウ糖と結合すると分離しないため、過去1～2箇月の血液中のブドウ糖の濃度である血糖値の状態を反映する。なお、HbA1cの基準値は、4.7%～6.2%で、6.5%以上あると糖尿病と判定される。
- ※20 **ハイリスク妊娠** 妊娠22週から32週未満の早産、40歳以上の初産婦、多胎妊娠など妊娠及び分娩において、母体及び胎児、新生児に危険が起こる可能性が高い妊娠を総称したものをいう。
- ※21 **包括算定の対象入院期間Ⅱ** 診断群分類に基づく入院料の包括算定制度をDPC制度 (Diagnosis Procedure Combination) という。DPCにおける診療報酬の額は、包括評価部分と出来高部分で構成されている。包括評価部分では在院日数に応じて、在院日数の短いほうから、入院期間Ⅰ、入院期間Ⅱ、入院期間Ⅲに分類されている。
- ※22 **インパクトファクター (Impact Factor : IF)** 特定のある雑誌が一論文あたり平均何回引用されているかを算出した数値で、雑誌の影響度を示す指標をいう。
- ※23 **SPC (Special Purpose Company : 特定目的会社)** PFI事業を実施するために設立された会社をいう。
- ※24 **神奈川県立病院地域医療連携会議** 県立病院が相互に連携して地域医療連携業務の推進を図るために設置した会議をいう。なお、構成員は神奈川県立病院機構6病院、神奈川県立汐見台病院及び神奈川県総合リハビリテーションセンターである。
- ※25 **神奈川がん臨床研究・情報機構** がん克服を目指し、産学公が連携してがんの予防、診断治療に関する研究を推進するため、大学、研究所、医薬品関連会社等を構成員とする組織をいう。
- ※26 **BSI (Blood Stream Infection)** 血管内留置カテーテルに関連した血流感染をいう。

- ※27 **SSI (Surgical Site Infection)** 手術を行った部位に発生する感染症のことをいう。
- ※28 **新興感染症** 1970年以降に新しく認識された、それまで明らかになっていなかった病原体に起因した感染症で、局地的に、あるいは国際的に公衆衛生上で問題となる感染症をいう。
- ※29 **セカンドオピニオン** 患者及びその家族が診断、治療法等の判断に当たって、主治医と別の専門医の意見を聴くことをいう。
- ※30 **プリセプターシップ** 一人の新人看護師（プリセプティ）に一人の先輩看護師（プリセプター）がつき、ある一定期間、新人教育を行う制度をいう。病院機構では、プリセプターを中心に、各セクションの職員全員で新人の育成を支援する体制を整えている。
- ※31 **専門看護師** 看護師のうち、社団法人日本看護協会専門看護師認定審査に合格し、特定の専門看護分野において、卓越した看護実践能力を有することが認められた者をいう。
- ※32 **認定看護師** 看護師のうち、社団法人日本看護協会認定看護師認定審査に合格し、特定の認定看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することが認められた者をいう。
- ※33 **認定看護管理者** 看護師のうち、社団法人日本看護協会の認定看護管理者認定審査に合格し、管理者としての優れた資質と組織の発展をできる能力があると認められた者をいう。
- ※34 **精神科認定看護師** 看護師のうち、社団法人日本精神科看護技術協会の認定看護管理者認定審査に合格し、精神科の認定看護領域において、優れた看護技術と知識及び実践能力を有することが認められた者をいう。
- ※35 **リバースオークション** 売り手が買い手を選定する通常のオークションと異なり、買い手が売り手を選定する逆（Reverse）のオークションである。具体的な内容としては、ある商品を買う者が売り手の間で価格入札を行わせて、最も安い価格を入札した者から購入を決定する。